

平成30年度

聖坂学園 事業所・施設事業報告

オリブ工房
オリーブ・フードファクトリー
ナザレ工房（パン工房ナザレ）
シーダひのき工房
シーダ日野学園
オリーブの家
ナザレンホーム
眞砂ホーム
相談事業所ひじりざか
横浜市神之木地域ケアプラザ

理事会 令和元年5月29日

社会福祉法人聖坂学園

1. 施設運営について

2018年度においても法人理念を基として、障害福祉分野では、施設入所支援、障害福祉サービス事業の生活介護、短期入所事業、共同生活援助事業、計画相談事業を行いました。又、地域ケアプラザは地域福祉の拠点として、介護保険制度及び横浜市委託事業における各事業について、ほぼ事業計画に基づいて実施いたしました。

障害福祉分野では、シーダ日野学園が12年を越えてハード面において様々な不具合が出てきている中、今期は各ユニットの給湯器(全体の半分)の交換を行いました。また、リサイクル作業班の活動場所を広げる工事と、雨除け日除けを設置しました。

計画相談のニーズに応える為に、12月1日にシーダ日野学園、シーダひのき工房の敷地内に計画相談事業所「ひじりざか」を開所致しました。サービス等利用計画案を作成し、サービス担当者会議の開催を通して計画案を確定し、定期的にモニタリングを実施しています。

高齢者福祉分野では「高齢者、子ども、障がいのある人など誰もが地域で安心して暮らせるよう、身近な福祉・保健の拠点として、福祉サービス、保健サービス等を総合的に提供する。」使命を果たすため、関係機関、関連団体、医療機関、介護保険事業者等と連携・協働し、各事業活動を積極的に推進しました。

今年度は、包括支援センター業務の基盤的機能である「総合相談支援業務」の改革に着手し、手書きであった相談票を止め、相談票の書式と記述ルールを定めデジタル化をしました。すべての職員が相談内容を参照できるようになり、職員全員での相談内容のレビューを行える環境が整いました。地域の方々の全ての相談に対し課題解決に向けた対応方針の検討・決定・共有が可能となり、ケアプラザが持つ経験・知識を活かした支援ができるようになりました。

2. 利用者支援について

新規利用者は法人全体で新卒7名を迎えました。退所利用者は3名で、シーダ日野学園の1名はご病気で亡くなりました。

今年度も、各事業所の規模に応じて観光バスや車等を利用して日帰り旅行を実施しました。仲間と一緒に食事をしたり見学や買い物等を楽しみました。

オリーブ・フードファクトリーでは、「聖坂あんぱん」と銘打ち、名物パンの販売を開始しました。粒餡の質と量にこだわった特製あんぱんとして、毎週水曜日の限定販売としています。日野学園では、「合同生活」や「土曜レク」の実施によりユニットを超えた支援の交流を進めています。

通所の事業所では、出勤に前向きになれない方に訪問支援を行ったり、利用者の高齢化に伴い出現してくる様々な心身の状態の変化や課題、本人並びに家族のニーズに柔軟に対応できるように心がけ対応しました。パテーション等を活用し活動場所の工夫をして、利用者が安全で安心して過ごせ、個々に豊かな活動を提供できるようにも

取り組みました。また、自宅での生活が困難なケースへの対応が増加しています。担当ケースワーカー、計画相談事業所や基幹相談センター、当該施設が主軸となって、家庭での生活、今後の支援等を関係機関と連携しています。

冬季には、各事業所で消毒を心がけ感染防止対策を行っていましたが、インフルエンザ罹患者が発生した為にユニット閉鎖をしたり、短期間に罹患者が急増して関係機関に報告し対応した通所事業所もありました。

各ホームでは、地域との関係作りを行うと共に、防災訓練や公園清掃等に参加する等して地域の一員として役割を担うように取り組んでいます。

各施設、高齢化重度化していく中で、年齢と共に身体機能の低下や疾病が見つかる等、食事や健康面では、栄養士や看護師又は精神科医師との連携は欠かすことができない状況にあり、協力病院をはじめ近隣病院との連携を行っています。

利用者の支援内容の研鑽と共に、この地域に潜在する障害福祉のニーズに応えるようソーシャルワーク力を高めていきながら、各事業所・施設は利用者寄り添い、人権の尊重を基本にしながら、意思決定支援（自己決定、自己選択）を大切に支援しました。

3. 職員の状況について

職員は、異動職員12名、新採用・中途採用職員は合わせて38名でした。また、疾病等で長期欠勤者が出ました。退職者は33名でした。

シーダ日野学園については、現場職員の配置転換を積極的に進めて、人の流れを生み出すことにより、ユニットの空気感を入れ替えて利用者支援に向き合えるよう取り組みました。特に弊害はなく、利用者職員共に良い刺激となりました。また、職員の健康増進を図る目的で、引き続き衛生委員会を毎月開催し、秋には「ストレスチェック」を実施しました。相談事業所を開設する為に、法人内異動で対象職員が横浜市相談支援従事者向け研修を受講し必要な要件を満す事により、12月1日に職員相談支援専門員を正職員2名を専従で配置し、事務職員（パート職員）と管理者（兼務）の4名体制でスタートしました。

職員の採用については、厳しい状況が続いており、法人ホームページを聖坂養護学校との相互活用と共に刷新し4月より運用を開始しました。応募を検討している方が、ホームページを閲覧して法人の事業を理解し、採用に繋げる事もできました。ネット媒体等も活用し、中途採用を行ってきましたが、新卒者の採用を行う事はできませんでした。次年度へ向けての課題となります。

各施設内部研修では、権利擁護等の研修に力を入れて行い、アンガーマネジメントの講習会を行う事業所もありました。また、外部研修では、県連合主催の新人職員研修参加し、人権感覚を養うことに努めました。更に、支援向上のために、自閉症セミナー、てんかん援助セミナー等に派遣し研鑽の機会を持ちました。

4. 障害各事業所・施設活動報告について

(1) 利用者の入所・退所 人数報告

事業所 施設	オリブ 工房	オリブ・ フード ファクトリー	ナザレ 工房 (パン 工房含む)	シーダ ひのき 工房	シーダ 日野学園	オリブの家 (第1・第2)	ナザレン ホーム (第1・第2)	眞砂 ホーム (第1・第2)
定員 (名)	60	30	60	50	生活 70 入所 50	13	15	20
年度始 契約利用 (名)	58	19	58	45	生活 70 入所 50	13	14	20
入所 (名)	2 (新卒2)	2 (新卒2)	1 (新卒1)	2 (新卒2)	0	0	0	0
退所 (名)	0	1	0	1	1	0	0	0
年度末 契約利用 (名)	58	18	58	46	生活 69 入所 49	13	14	20

(2) 職員の入職・退職・法人内異動報告 (パート職員も含む)

事業所 施設 (職員数)	本部	オリブ 工房	オリブ・ フードファ クトリー	ナザ レ工房 (パン工房 含む)	シーダ ひのき 工房	シーダ 日野学園	オリブ の家	ナザレ ン ホーム	眞砂 ホーム	相談事業 所ひじり ざか	神之木 地域 ケアプラザ
就任合計	1	2	1	5	4	8	1	1	1	1	13
(正職)	1	1	0	2	4	5	0	0	1	0	4
(パート)	0	1	1	3	0	3	1	1	0	1	9
異動	0	2	0	1	0	3	1	0	2	2	0
退職合計	0	3	0	4	3	12	0	4	1	0	6
(正職)	0	1	0	0	1	7	0	0	1	0	2
(パート)	0	2	0	4	2	5	0	4	0	0	4
異動	1	2	4	2	1	1	1	1	3	0	0

法人全体 年度内中途採用も含む () 内は昨年度
 就任 38名 (47名) 異動 12名
 内訳: 正職 18名 パート 20名
 退職 33名 (26名) 異動 16名
 内訳: 正職 12名 パート 21名

(3) 各事業の実施件数報告

①生活介護事業年間実施日数 総支援日数 251日 (昨年度251日)

事業所・施設	オリブ工房	オリーブ・フードファクトリー	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用数	12,864名	4,077名	12,838名	10,069名
平均実利用者	51.3名 (51.8)	16.2名 (15.7)	51.1名 (51.4)	40.1名 (40.3)
定員に対して利用率(%)	85.5% (86.3%)	54.03% (52.3%)	85.2% (85.7%)	80.2% (80.7%)

②短期入所事業の利用人数及び利用日数

事業所・施設	シーダひのき工房	シーダ日野学園
延べ利用人数 (昨年度)	5件 (0件)	1,535件 (1,328件)

③日中一時事業 (通所施設のための事業)

事業所・施設	オリブ工房	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用件数	34件 (120件)	68件 (234件)	9件 (8件)

④送迎サービス (通所施設のための事業)

事業所	オリブ工房	ナザレ工房 (パン工房含)	シーダひのき工房
延べ利用人数	3,908件 (3,602件)	5,245件 (4,693件)	3,513件 (3,476件)

5. 神之木地域ケアプラザ活動報告

(1) 地域活動交流事業・地域包括支援センター

(ア)地域活動交流事業

① 子育て支援

絵本の読み聞かせ (52回、1043人)、おやこふりーすぺーす (8回、75人)、かなプラ子育て応援タイム (3回、155人)、おやこふれあいリズム遊び (4回、50人)、みんなで子育てわいわいパーク (2回、112人)、「離乳食について」わいわいパーク&かなプラ共催 (1回、35人)

② 障がい者支援

視覚障がい者の誘導の仕方を学ぶ講座 (H30開始、3回、44人)、遊友くらぶ (7回、59人)、特定疾患ふれあい交流会 (11回、145人)、脳トレ倶楽部 (22回、307人)

③ 高齢者支援

木曜サロン (9回、111人)、パソコン教室 (20回、281人)、神之木住まい
る (21回、105人)、スクエアステップサークル (12回、106人)

④ その他

神之木ボランティア交流会 (1回、9人)、地区センターまつり「レコード
喫茶」(1回、60名)、くーるーむ ほっとるーむ (2回、48名)、交通安全
講座 (1回、17名)、神奈川区民まつり「ケアプラこどもコーナー」(1回、
197名)、神奈川中学職業体験 (1回、8人)

(イ)生活支援体制整備事業

① 「はーとふる喫茶」の立ち上げ

H30年度 認知症の方々やご家族、地域の方々の相談・つどいの場として
ケアプラザで毎月第3火曜日に開催をスタートしました。ボランティア7、
8人、平均35人程度の方々に参加いただくようになり、地域に定着してき
ています。

②松見地区での子供向け防災

地域の方が、松見2丁目西部町内会で月に2回「すくすくかめっこ」(地域
の方々と親子が一緒におしゃべりや仲間づくりをする「親子のたまり場」)
開催しています。子育て世代にも防災に関心を持ってほしいと考えている
町会の方々と協力し、講座を考えています。

(ウ)地域包括支援センター

① 介護予防ケアプラン作成件数 (要支援1・2) : 総件数 : 1,816件 (前年比
+3件)

● 新規 : 70件 (前年比+6件) 継続 : 1,746件 (前年比▲3件)

② 相談件数 : 2,245件 (前年比▲140件)

● 来所 : 819件 (前年比▲18件) 電話等 : 1,368件 (前年比+246件)

● 相談者別 : 家族 974人 (前年比+184人)、本人 498人 (前年比+94人)、
居宅サービス事業者等 415人 (前年比+31人)

● 相談内容別 : 介護保険 901件 (前年比+105件)、日常生活課題 315件 (+
141件)、認知症(BPSD行動・心理症状)168件 (前年比+83件)、成年
後見制度 143件 (前年比+59件)、医療 (認知症以外) 96件 (前年比
+16件)

(2) 介護保険部門

(エ)居宅介護支援事業

● 介護認定調査 93件 (前年比+4人)

● ケアプラン作成 (要介護者) 850件 (前年比▲12人)

● ケアプラン作成(要支援者)180件 (前年比▲16人)

(オ)通所 (予防通所) 介護事業

● 年間利用者 合計 : 5,607人 ((前年比▲231人)

(内要支援1・2) : 814人 (前年比▲62人)

(内要介護1～5)：4,793人(前年比▲16人)

● 1日平均利用者(年間平均)：18.2人(前年比▲0.8人)

● 年間稼働日数：307日((前年比-1日))

6. 事故報告・ヒヤリハット・苦情、要望解決

事業所施設	オリーブ工房	オリーブ・フードファクトリー	ナザレ工房	シーダひのき工房	シーダ日野学園	神之木地域ケアプラザ
事故報告	77	10	24	17	71	1
ヒヤリハット	16	0	37	6	79	2
苦情・要望	5	0	1	0	1	0

事業所	オリーブの家	ナザレンホーム	眞砂ホーム
事故報告	1	1	12
ヒヤリハット	0	0	13
苦情・要望	0	0	1

①事故報告・ヒヤリハットの主な事由

- ・骨折
- ・薬：セットミス、誤薬、投薬忘れ、飲みこぼし等
- ・通勤時のトラブル
- ・賞味期限ラベル貼り間違え
- ・一時所在不明
- ・他害(物損、裂傷・打撲・内出血・嘔みつき)
- ・破損(テレビや食器乾燥機、ガラス、壁紙、障子、トイレ等)
- ・転倒(打撲、裂傷)
- ・自動通報装置の誤作動。
- ・公用車自損
- ・職員のけが等

②苦情要望の主な事由

苦情解決制度に至らないものですが、利用者支援に関する要望や相談、家庭生活における相談が主なものでした。